

神戸とアフリカのつながり

新 山 智 基

はじめに

近年、アフリカ大陸の経済市場への注目が増している。日本の企業進出も進んでおり、アフリカ開発銀行アジア代表事務所／アフリカビジネスパートナーズが発行している『アフリカビジネスに関わる日本企業リスト（2016年1月版）』では、2015年11月時点でアフリカに進出している日本企業の拠点数は400にのぼる¹⁾。国別の拠点数は、南アフリカ（136拠点）、ケニア（40拠点）、エジプト（39拠点）、ナイジェリア（28拠点）、モロッコ（28拠点）が上位を占め、地域別にみると南部178拠点（40%）、東部100拠点（23%）、北部93拠点（21%）、西部60拠点（14%）、中部9拠点（2%）という状況になっている²⁾。

一方でアフリカでは多くの課題・問題が点在する。例えば、貧困問題は最も対策が必要な課題のひとつである。世界銀行が発表している国際貧困ラインの1.9ドル未満で生活している人々の数値を見てみると、サハラ以南アフリカ（サブサハラ・アフリカ）地域³⁾では2013年現在人口9億4,832万人に対して、40.99%の人々がこの水準での生活を余儀なくされている⁴⁾。

1) アフリカ開発銀行アジア代表事務所・アフリカビジネスパートナーズ（2016）「アフリカビジネスに関わる日本企業リスト」p.3

2) 同上

3) 北アフリカを除く地域を指す。アフリカ大陸全体で約11億人の人々が生活している。

4) 「World Bank : Regional aggregation using 2011 PPP and \$1.9/day poverty line」
<http://iresearch.worldbank.org/PovcalNet/povDuplicateWB.aspx>（2017年3月16日閲覧・取得）

こうした様々な姿をもつアフリカにおいて、日本はどのような関わりを持ってきたのだろうか。近年のアフリカとの交流においては、日本主導でのアフリカ開発を目指した取り組みとして、2016年8月に開催された第6回アフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development: TICAD）⁵⁾が挙げられる。TICAD VIでは、ナイロビ宣言が採択され、「経済多角化・産業化を通じた経済構造改革の促進」、「質の高い生活のための強靱な保健システム促進」、「繁栄の共有のための社会安定化促進」の3つの取り組むべき課題・優先分野が明示され、2016年から2018年までの3年間で官民合わせて300億ドル規模の投資や約1,000万人の人材育成を実施していくことが発表された⁶⁾。

このように国家レベルではアフリカに対して様々な取り組み・交流を行っている。では、さらに小さな単位として県政や市政レベルではどのような取り組み・交流があるのだろうか。本稿では、神戸（市）とアフリカの関わりについて、（1）貿易、（2）経済交流、（3）情報へのアクセスの3つの視点から明らかにしていく。

1. みなとまち神戸とアフリカ

神戸とアフリカの関係は古く、「みなとまち神戸」といわれるように1868年に開港し2017年で150周年を迎えた神戸港は、アフリカ地域との貿易を古くから行ってきた。商工省貿易局が1941年（昭和14年）に発行している『貿易業調査書』では、1930年代末のアフリカへの貿易の様子をうかがい知ることができる。表1は、1930年代末当時のアフリカへの輸出額を記したものである。当時、アフリカ地域への日本全国の輸出額1億5,085万1,586円に対して、東京697万6,826円（4.6%）、横浜1,043万9,298円（6.9%）、名古屋881万2,290円（5.8%）、大阪

5) 1993年第1回のTICADが開催されると、2013年のTICAD Vまでは5年に1度日本で開催されている。TICAD VIからは3年ごとに日本とアフリカの交互で開催される形に変更され、2016年のTICAD VIはケニアでアフリカ初となるTICADが開催された。

6) TICAD VI事務局（2016）「ナイロビ宣言：概要」および「TICAD VIにおける我が国取組」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000183834.pdf>

5,354万7,038円（35.5%）、神戸6,796万6,255円（45.1%）と、関西圏の神戸・大阪の港でアフリカ地域への8割の輸出額を占めていた。日本の主要5港といわれる東京、横浜、名古屋、大阪、神戸のなかでも、神戸港はアフリカ地域への貿易輸出額がトップのシェアを占めており、神戸の港から多くの輸出品がアフリカに渡っている。

例えば、最大の輸出額を占めている南アフリカ（表1参照）では、日本人の古谷駒平が経営する「ミカド商会」がケープタウンに開店し、日本雑貨や美術品を取り扱っていた⁷⁾。神戸市商工課が1922年（大正11年）に発行した『海外商工名鑑』には、ミカド商会が日本から輸入していた商品として、羊毛や薬品、綿毛、絹布、綿織物、綿製品、鈕釦、雑貨、化粧品、櫛、コピー紙、製図紙、印刷用紙、紙ナプキン、扇子、石綿、材木、柳細工、電球、肥料が記録として残っている⁸⁾。

2016年現在のアフリカ地域への日本全国の輸出額は約8,400億円（輸入額約8,000億円）である（表2参照）。主要5港でみると、1930年代は神戸が1位であったが、現在では名古屋が輸出額の1位となっていることがわかる。1930年代当時は輸出額の約98%が主要5港で占められていたが、現在では航空網の発達によって航空便での取引もあるため、主要5港の占める割合は約52%である。神戸港の輸出総額に占める割合をみた場合には、1930年代は約45%であったのに対して、2016年は約7.8%となっている。

7) Masako Osada. (2002), *Sanctions and Honorary Whites: Diplomatic Policies and Economic Realities in Relations Between Japan and South Africa*, Greenwood Press, p.30.

8) 神戸市商工課編（1922）『海外商工名鑑』神戸市商工課、pp.149-153

表1：主要5港のアフリカへの輸出総額（1930年代末）

単位（円）

国 名		全 国	神 戸	東 京	横 浜	名古屋	大 阪
記載名	現在の国名・地域						
埃及	エジプト	17,217,705	6,728,214	3,318,763	1,116,319	894,521	4,915,845
アングロ、ジプシアン、スーダン	スーダン	8,269,754	3,153,990	15,397	12,594	1,531,505	3,469,729
エリトリア	エリトリア	960,823	193,851	106,104	45,006	29	220,648
佛領ソマリ、コースト	ジブチ	116,281	48,693	—	5,589	17,475	44,524
伊領ソマリ、ランド	ソマリア	130,547	66,502	—	8,577	18,084	37,384
ケニア、ウガンダ及タンガニーカ	ケニア、ウガンダ、タンザニア	21,643,375	9,145,844	101,937	242,851	1,056,455	11,032,230
モザンビーク	モザンビーク	3,476,171	1,810,564	84,357	95,320	535,429	932,080
ローデシア	ザンビア、ジンバブエ	2,276,662	1,777,803	4,430	80,839	—	399,604
南アフリカ連邦	南アフリカ	49,554,973	27,693,827	1,921,929	6,114,555	3,167,999	9,723,798
アンゴラ	アンゴラ	1,021,444	598,353	5,461	29,196	1,536	385,027
白領コンゴ	コンゴ民主	10,247,980	4,456,635	171,911	66,997	252,962	5,214,884
カメルーン	カメルーン	2,795,149	1,790,600	13,716	143,860	100,406	729,477
ナイジェリア	ナイジェリア	3,045,974	1,701,739	203,485	415,280	17,174	614,350
ダホミ	ベナン	452,881	147,644	15,991	88,989	11,689	184,966
ゴールドコースト	ガーナ	2,124,481	1,131,856	236,597	511,906	5,513	203,432
リベリア	リベリア	479,113	237,889	385	3,620	19,036	218,183
シエラ、リオニ	シエラレオネ	112,063	99,897	2,703	5,775	—	3,688
佛領ギニア	ギニア	171,917	49,194	17,732	14,760	150	84,273
セネガル	セネガル	288,389	105,780	50,430	13,353	1,337	73,910
佛領モロッコ	モロッコ	20,914,354	4,557,301	333,301	409,856	982,361	13,986,638
西領モロッコ	西サハラ	88,043	52,298	—	7,032	441	27,042
アルジェリア	アルジェリア	820,175	201,042	161,030	67,660	—	78,922
チュニス	チュニジア	180,032	37,178	12,050	98,792	632	7,124
リビア	リビア	34,868	2,957	79	2,226	29,305	301
カナリヤ諸島	カナリヤ諸島	329,272	120,565	—	202,473	—	6,234
マダガスカル及リユニオン	マダガスカル、レユニオン	57,557	48,207	—	8,887	—	175
モーリシウス	モーリシャス	635,379	376,330	32,843	74,845	12,679	104,610
佛領赤道アフリカ	ガボン、中央アフリカ、コンゴ、ガボン	653,654	359,695	16,259	7,597	14,076	247,297
ケープ、ヴェルデ諸島	カーボヴェルデ	114,669	74,738	2,238	37,693	—	—
葡領ギニア	ギニア	167,822	82,700	496	—	500	81,049
其ノ他ノアフリカ	その他のアフリカ	2,470,079	1,114,369	147,202	506,851	140,996	519,614
計		150,851,586	67,966,255	6,976,826	10,439,298	8,812,290	53,547,038

※太字は各国で最も輸出額が高い港を指す。

<出所>商工省貿易局（1941）『貿易業調査書』商工省貿易局、pp.299-304より抜粋、筆者作成。

表 2 : 主要 5 港のアフリカへの輸出入総額 (2016年)

単位 (1,000円)

国 名	輸 出 額					輸 入 額				
	全 国	神 戸	東 京	横 浜	名古屋	大 阪	全 国	神 戸	東 京	横 浜
モロッコ	36,564,766	2,169,605	710,213	9,646,160	3,376,728	181,429	29,422,206	942,729	9,452,321	3,313,367
セウタ及びメリア (西)	160,259	99,621	12,009	11,159	608	3,154	23,120	0	10,012	0
アルジェリア	24,060,795	2,042,963	647,288	7,917,249	2,033,944	243,209	35,472,009	0	4,036	258,613
チュニジア	9,518,328	529,557	405,339	1,492,392	3,955,015	60,806	10,549,215	87,324	607,028	272,565
リビア	2,290,892	314,396	10,677	210,785	1,135,459	5,034	1,412,910	0	6790	692,361
エジプト	124,175,534	14,230,645	3,087,792	32,812,268	17,461,858	3,239,317	15,303,847	546,787	871,680	855,981
スーダン	5,391,839	823,840	60,600	1,662,479	2,095,499	27,143	2,777,078	299,507	574	140,452
西サハラ	9,190	—	—	9,190	—	0	16,596	—	—	0
モーリタニア	1,245,728	19,830	1,640	167,155	41,246	14,608	13,940,504	17,520	9,517,615	217,703
セネガル	5,943,106	1,103,076	33,667	948,363	332,404	37,304	839,511	23,755	471,354	7,376
ガンビア	176,257	2,053	14,569	8,832	52,275	4,610	0	0	0	0
ギニア・ビサウ	193,080	—	2,938	137,271	10,548	—	0	—	0	0
ギニア	812,164	76,210	6,425	177,986	174,824	14,670	121,542	951	1,371	59,017
シエラレオネ	1,554,394	—	4,657	32,302	200,422	0	194,824	—	2,929	0
リベリア	119,166,829	258,331	6,438	196,742	85,038	11,447	19,830	0	18,549	0
コートジボワール	5,539,849	1,039,688	149,304	1,283,219	99,560	16,245	1,574,632	7,463	136,431	552,290
ガーナ	13,549,010	997,884	1,107,030	3,670,521	3,376,379	156,703	20,069,987	5,171,173	867,796	11,632,964
トーゴ	4,682,731	631,059	39,226	560,072	194,585	23,624	427,354	50,766	0	0
ベナン	1,144,486	207,007	94,601	193,174	73,882	10,707	128,928	8,328	20,425	0
マリ	846,223	98,097	13,208	138,914	78,664	—	19,574	1,442	4,628	0
ブルキナファソ	3,183,496	921,883	374,101	44,379	193,649	185,065	1,449,770	387,361	3,113	22,769
カーボヴェルデ	559,702	—	5,963	8,885	357,085	25,652	9,783	—	8,193	0
カナリー諸島 (西)	2,156,490	60,437	385,813	145,175	898,496	74,028	5,605	0	970	0
ナイジェリア	35,614,015	4,379,444	1,058,330	5,685,776	3,208,728	558,290	94,017,330	4,158,505	155,434	5,685,076
ニジェール	803,198	110,795	1,373	137,514	75,001	—	67,524	0	0	3,216
ルワンダ	678,398	23,259	20,318	221,559	199,169	—	860,630	477,444	5,465	149,040
カメルーン	2,946,986	1,142,723	23,641	751,475	140,545	2,444	490,720	7,507	85,268	176,508
チャド	909,520	2,420	20,350	712,011	89,534	—	7,577,125	0	0	12,937
中央アフリカ	307,458	13,755	6,776	231,806	16,692	—	175,299	0	125,992	0
赤道ギニア	139,179	5,736	1,112	11,047	—	—	13,809,433	0	0	—
ガボン	2,945,737	437,109	33,046	301,451	1,859,260	3,138	5,970,957	13,184	6,838	88,962
コンゴ共和国	1,413,727	123,784	5,427	224,457	228,926	—	2,510,765	539	1,886	259
										30,017

コンゴ民主共和国	4,553,678	349,473	8,363	1,172,140	531,335	61,986	1,116,892	13,105	542	13,054	220,782	28,385
ブルンジ	562,589	44,286	0	71,720	151,502	326	120,280	6,318	2,777	109,401	0	0
アンゴラ	3,421,550	538,928	47,182	1,159,687	545,882	25,445	2,273,623	0	8,612	0	340,725	36,854
サントメ・プリンシペ	128,973	—	—	121,188	4,128	—	5,462	—	—	5,462	0	—
セントヘレナ及びその附属諸島(英)	5,430	—	0	0	5,430	—	471,746	—	228,128	1,160	242,458	—
エチオピア	11,126,828	530,426	158,795	1,326,864	6,058,046	29,715	8,316,793	1,736,696	225,449	4,473,087	781,415	126,992
ジブチ	3,688,970	53,782	22,558	756,601	331,027	208	34,962	0	0	0	0	0
ソマリア	396,861	28,905	0	187,068	23,891	4,538	896,825	0	18,065	53,702	90,323	665,115
ケニア	80,744,535	9,014,868	212,955	23,101,913	10,598,511	908,127	6,344,187	235,386	342,012	760,875	468,386	461,167
ウガンダ	17,661,173	1,351,985	62,981	3,724,157	2,523,569	111,763	1,122,335	144,910	175,714	364,786	138,838	52,510
タンザニア	24,009,941	2,149,763	336,365	5,334,927	3,934,767	182,710	18,342,034	1,840,100	1,473,650	2,723,503	3,455,051	42,132
セーシェル	2,008,687	251,872	8,850	499,003	722,448	320	5,607,361	0	111,101	0	0	0
モザンビーク	5,556,120	831,302	88,489	1,008,706	572,991	16,540	13,877,632	81,003	300,234	337,937	634,795	425,883
マダガスカル	1,367,009	180,662	198,812	365,804	212,113	4,402	10,946,653	247,614	576,023	1,899,003	3,133,097	2,308,265
モーリシャス	12,915,530	614,384	155,672	2,284,564	2,472,960	245,512	633,690	14,657	84,225	6,018	3,689	0
レユニオン(仏)	1,671,317	112,893	7,831	1,862	748,611	157,313	109,663	21,511	86,294	0	0	0
ジンバブエ	1,810,523	185,908	22,697	375,975	331,863	1,886	1,476,519	268,267	484,230	124,284	267,035	75,756
ナミビア	3,042,881	661,676	918,993	597,427	81,379	7,948	947,438	0	755,588	65,656	0	0
南アフリカ共和国	242,232,798	15,550,775	8,126,306	44,943,011	106,834,497	2,420,189	457,819,279	6,402,587	6,876,057	13,421,696	18,961,119	2,706,405
レソト	627,071	27,507	8,320	126,498	239,293	4,270	39,465	0	11,178	0	0	0
マラウイ	2,040,455	195,328	32,381	258,057	216,553	15,507	1,323,473	384,428	363,956	12,255	379,352	0
ザンビア	5,220,697	759,780	225,531	667,344	1,068,124	7,025	2,678,304	1,027,443	643,664	498,144	287,337	67,474
ボツワナ	2,681,529	398,914	205,327	718,410	818,258	—	2,695,947	0	118,266	0	0	—
スワジランド	1,187,493	53,198	16,042	220,215	263,814	32,552	63,417	3,699	37,453	19,460	0	1,003
英領インド洋地域	599	—	—	—	599	—	2,020	—	—	—	2,020	—
コモロ	133,492	—	1,042	1,227	3,033	—	4,117	—	1,654	406	0	—
エリトリア	127,085	30,160	0	8,693	—	—	2,445	0	1,820	0	—	—
南スーダン	996,184	43,225	600	633,596	85,591	—	45,065	0	521	44,544	0	—
計	838,603,364	65,825,207	19,209,963	159,418,425	181,426,218	9,136,909	796,576,235	24,630,009	35,313,911	45,330,787	42,335,773	12,455,391

※全国(総額)には港に加え、空港での取引額も含まれる。

※太字は各国で最も輸出／輸入額が高い港を指す。

＜出所＞「財務省貿易統計：国別総額表」<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=23&P=0> (2017年3月10日閲覧・取得) および「財務省貿易統計：税関別国別総額表」<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=25&P=0> (2017年3月10日閲覧・取得) より筆者作成。

2. 神戸市とアフリカ（ルワンダ）間の経済交流の推進

神戸市では2025年度までの都市像や方向性を示した構想（「新・神戸市基本構想」、「神戸づくりの指針」）を実現するために、5ヵ年計画（2011～2015年度）として「神戸2015ビジョン」を2011年2月に策定した。この構想を引き継ぐ形で2016～2020年度までの5ヵ年計画を示したものが「神戸2020ビジョン」である。⁹⁾ ビジョンの施策の基本的な方向性として次の6つを掲げている。

- ①若者に魅力的なしごとづくり
- ②若者を惹きつける魅力づくり
- ③若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり
- ④次世代の将来を約束できる環境づくり
- ⑤安心なくらしづくり
- ⑥地域と地域の連携づくり

本稿で注目しているアフリカとの関わりについては、「若者に魅力的なしごとづくり」のなかの「次代の基幹産業の育成・振興」という項目で、「アフリカなど成長市場との経済交流」が取り上げられている。ここでは次のような事柄が明記されている。

アフリカなど成長著しい地域との経済交流に取り組むことで、神戸経済の新たな成長機会の創出を目指します。特に、IT分野等でビジネスチャンスが期待できるルワンダ共和国と神戸との経済交流を実施し、両国の企業間での新たなビジネスの創出を図ります。¹⁰⁾

神戸市はアフリカのなかでもルワンダ共和国（以降、ルワンダとする）とのIT分野を通じた経済的な交流を確立することで、新たなビジネスモデルを構築

9) 神戸市（2016）「神戸2020ビジョン」p.1

10) 同上、p.27

しようとしている。表3は、これまでに神戸市がアフリカ（主にルワンダ）との交流活動や市内で実施したイベントなどの関連活動をまとめた年表である。神戸市はルワンダとの新たなプロジェクトの一環として、「アフリカ・ルワンダ地域との ICT 分野における経済連携機能の強化」を打ち出し、ルワンダ国内に「ルワンダ IT ビジネスコーディネーター」を配置し、神戸とルワンダの IT 企業間によるさらなる交流の促進に取り組んでいる¹¹⁾。

一方で神戸市内では、神戸情報大学院大学がルワンダ人留学生を受け入れ、ICT（情報通信技術）を活用した社会開発や社会課題解決をできる人材を育成している。このような受け入れの契機となったのは2013年に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD V）であり、5年間で1,000人のアフリカ人留学生を日本に受け入れることを表明した。神戸情報大学院大学では2016年4月時点で、アフリカ12ヵ国から計49人の留学生を受け入れ、ルワンダからは国内最多の12人が学んでいる¹²⁾。

また、こうした留学生と日本の企業が交流を持てるようにインターンシップの斡旋や情報交換をできるような場として、2016年には「第1回アフリカビジネスセミナー」や「第2回アフリカビジネスセミナー：アフリカンドリームを関西に！」が開催されるなど、アフリカ市場に注目した交流イベントが実施されている。「第2回アフリカビジネスセミナー」では、関西の約50社の企業と留学生155人が参加し、留学生側からは自国でのビジネスプラン、企業側からは自社の事業概要や展開などの紹介が行われ、交流が図られた¹³⁾。

11) 「神戸市：アフリカ・ルワンダ地域との ICT 分野における経済連携機能の強化」 <http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/07/20160714041901.html>（2017年3月5日閲覧・取得）

12) 杉浦恵里「成長ルワンダ 神戸が熱視線 ICT 立国、産学官で支援 アフリカ開拓 突破口に（関西は今）」『日本経済新聞』2016年8月27日付朝刊、35面および「アフリカ進出で連携 神戸情報大学院大 企業に情報提供」『日本経済新聞』2016年4月13日付朝刊、31面

13) 「アフリカからの留学生と交流会 神戸市、企業と結ぶ」『日本経済新聞』2016年10月18日付朝刊、35面

表 3：神戸市とアフリカ／ルワンダの主な交流活動および関連年表

年	出来事
2012年 2 月～ 3 月	JICA の委託事業として神戸情報大学院大学が「アフリカ地域別研修：ICT 活用による開発課題解決コース」を実施。アフリカ 8 ヶ国から政府高官等の29名の研修員が参加（ルワンダ人留学生の受け入れを開始）
2013年 6 月	第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）：横浜 「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（African Business Education Initiative for Youth：ABE イニシアティブ）が提唱される。5 年間で1,000人のアフリカ留学生の受け入れ、大学・大学院教育や企業でのインターンシップを提供している。
2014年 6 月	神戸情報大学院大学がルワンダ ICT 商工会議所との間に「ICT 関連人材の育成と産業振興に関する連携協定」についての覚書を締結
2014年10月	神戸市とキガリ（ルワンダの首都）が連携して、2020年までにルワンダで1,000人の雇用を創出するプロジェクト「K-Initiative」が開始される。
2015年 5 月	神戸市の視察団がルワンダを訪問
2015年 9 月	「アフリカ・ルワンダ共和国ビジネスセミナー：キラリと光るアフリカの希望の国、ルワンダのビジネスチャンスを探る」開催 於：神戸ポートピアホテル 主催：神戸市、神戸情報大学院大学、JICA 関西、ジェトロ神戸、ひょうご・神戸国際ビジネススクエア、ルワンダ大使館、ルワンダ民間セクター連合 ICT 商工会議所、ルワンダ開発局
2016年 5 月	久元神戸市長や神戸経済界代表団がルワンダの首都キガリを訪問。ビジネス、学術、行政分野のパートナーシップ共同宣言（Joint Declaration of Partnership toward Creating an Innovation Eco System and Bridging Africa and Japan）を発表
2016年 6 月	「第 1 回アフリカビジネスセミナー」の開催 於：神戸ポートピアホテル 主催：ひょうご・神戸国際ビジネススクエア（ひょうご海外ビジネスセンター、ジェトロ神戸事務所、神戸市海外ビジネスセンター）、ジェトロ・アジア経済研究所、JICA 関西、神戸情報大学院大学
2016年 7 月 （～ 9 月まで）	ルワンダ IT ビジネスコーディネーターの配置を表明 神戸市が市場調査のためにルワンダに調査員を派遣（現地企業・団体の調査、ビジネスマッチングのアレンジ・支援、ルワンダ及び周辺国の ICT 産業の動向調査を実施）
2016年 8 月	第 6 回アフリカ開発会議（TICAD VI）：ケニア

2016年10月	「第2回アフリカビジネスセミナー：アフリカンドリームを関西に！」の開催 於：神戸ポートピアホテル 主催：ひょうご・神戸国際ビジネススクエア（JETRO 神戸、神戸市海外ビジネスセンター、ひょうご海外ビジネスセンター）、兵庫県、神戸市、JICA 関西、日本国際協力センター
2017年 3 月	「アフリカビジネス研究会」の開催 於：神戸商工貿易センタービル 主催：JICA 関西、ひょうご・神戸国際ビジネススクエア（ジェトロ神戸、ひょうご海外ビジネスセンター、神戸市海外ビジネスセンター）、神戸市、神戸商工会議所、神戸情報大学院大学
2017年 4 月	アフリカ神戸リエゾンオフィサー（連絡調整員）を配置
2017年 5 月	ルワンダのキガリで開催された「トランスフォームアフリカサミット2017」への参加（神戸市が進めるアフリカ・ルワンダでの ICT 分野への経済連携・交流や医療産業都市・スタートアップ支援の紹介等を実施）

<出所>

- 金井和之「情報通信の技術でアフリカと連携を 神戸市 橋渡し役配置へ」『朝日新聞』2017年 3 月28日付朝刊、29面
- 「神戸市：アフリカ・ルワンダ共和国ビジネスセミナーの開催」
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2015/08/20150825141901.html>
(2017年 3 月 9 日閲覧・取得)
- 「神戸市：アフリカ・ルワンダ地域との ICT 分野における経済連携機能の強化」
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/07/20160714041901.html>
(2017年 3 月 9 日閲覧・取得)
- 「神戸市：第2回アフリカビジネスセミナーの開催」
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/09/20160908041901.html>
(2017年 3 月 9 日閲覧・取得)
- 「神戸市：トランスフォームアフリカサミット2017に参加します」
<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2017/04/20170426041901.html>
(2017年 5 月 6 日閲覧・取得)
- 「神戸情報大学院大学：学外交流会・社会貢献」
<https://www.kic.ac.jp/index/outline/csr/> (2017年 3 月 9 日閲覧・取得)
- 「国際協力機構：アフリカビジネス研究会」
https://www.jica.go.jp/kansai/event/2016/170317_01.html (2017年 3 月21日閲覧・取得)
- 杉浦恵里「成長ルワンダ 神戸が熱視線 ICT 立国、産学官で支援 アフリカ開拓 突破口に（関西は今）」『日本経済新聞』2016年 8 月27日付朝刊、35面
- 「政府広報オンライン：神戸とルワンダの絆」
http://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/201607/201607_02_jp.html (2017年 3 月10日閲覧・取得)
- 「兵庫県：「第1回アフリカビジネスセミナー」のご案内」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20160517_892b92e7856c4c4749257fb60005db33.html (2017年 3 月 9 日閲覧・取得)

をもとに筆者作成。

3. 神戸で「アフリカ」の情報に触れるために

ここまでは、神戸とアフリカの関係について貿易や経済交流を述べてきたが、アフリカという地域のことをどれくらいの人々が知っているのだろうか。表3で紹介したように様々なセミナーやイベントに参加してアフリカの情報に触れることもひとつだろう。しかし、最も身近にアフリカという情報に触れることができるのは報道・ニュースではないだろうか。また、(学生に限られるが) 教養・専門的な情報については大学機関で提供されている講義を受講することで知ることもできるだろう。本項では「新聞記事」および「大学機関におけるアフリカを題材とした講義の提供実態」について見ていきたい。

まず、新聞記事であるが、兵庫県内に配達エリアを持つ地方紙の「神戸新聞(神戸新聞電子縮刷版)」および全国紙の「朝日新聞(聞蔵Ⅱ ビジュアル)」、「読売新聞(ヨミダス歴史館)」、「日本経済新聞(日経テレコン21)」の各新聞社のデータベースをもとに、過去5年間(2012年～2016年)の各1年間でどれくらいの「アフリカ」に関する記事が掲載されているのかを検索した¹⁴⁾。その結果、最新年の2016年では神戸新聞57件、朝日新聞1,707件、読売新聞1,287件、日本経済新聞1,326件が掲載されている(表4参照)。表4からわかるように、4紙中3紙で2013年が最もアフリカに関する記事が登場している。これは、2013年6月に横浜で開催されたTICAD Vの影響が大きく、日本国内でアフリカが注目された年といえるだろう。一方で、2016年もTICAD VIが開催されているが記事数は少ない。これはTICAD Vとは異なり、日本国内ではなくアフリカ(ケニア)で開催されたことが影響しているものと推察できる。多くのアフリカの要人が日本を訪れるインパクト¹⁵⁾や日本国内という身近に感じられる場所での開催ではなく、遠いアフリカでの開催が関連記事などを含めた記事数に影響しているのではないだろうか。

14) 検索キーワードは「アフリカ」のみとしたため、アフリカ大陸の54ヵ国の国名で検索した場合にはさらに多くの情報を得られるだろう。

15) 例えば、TICAD Vではアフリカ51ヵ国が参加し、国家元首・首脳級39名が出席している。

表 4：各新聞社の「アフリカ」をキーワードとした記事数

新聞社名	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
神戸新聞※ ¹	48	99	88	68	57
朝日新聞※ ²	1,801	2,174	2,131	2,156	1,707
読売新聞※ ³	1,175 (14)	1,414 (12)	1,520 (18)	1,593 (8)	1,287 (13)
日本経済新聞※ ⁴	1,214(1,323)	1,711(1,881)	1,702(1,873)	1,600(1,744)	1,326(1,483)

※¹：朝刊および夕刊。

※²：朝刊および夕刊、朝日デジタルを除く。

※³：朝刊および夕刊（全国版：地域版を除いたすべてのページ）、（ ）内は兵庫県の地域版で取り上げられた数値。

※⁴：朝刊および夕刊、（ ）内は日経地方経済面を含む数値。

＜出所＞各新聞社が提供しているデータベースをもとに検索（2017年3月23日に閲覧・取得）。

つぎに、大学機関においてアフリカについてどのような講義科目が提供されているのか、神戸市内各大学のホームページに掲載されているシラバスをもとに作成したのが表5である。2016年度現在で神戸市に拠点を持つ大学は19大学（短期大学を除く）である。そのうち、学部もしくは大学院にアフリカを含む講義を展開している大学は14大学あった。詳しく見ていくと、①科目名に「アフリカ」が入る講義を展開している大学は5大学、②科目名には入らないがシラバスの内容に「アフリカ」というキーワードが登場する大学は13大学となっている（表5参照）。単独の講義科目として存在している大学は少なく、外国史や国際関係、経済、文化、保健・健康などに関連した科目内で取り上げられることが多い傾向にあるといえるだろう。

表 5：神戸市内の大学で提供されている「アフリカ」関連科目の一覧（2016年度）

大学名	科目名に「アフリカ」が入っているもの	科目のシラバス内容に「アフリカ」というキーワードを含むもの
甲南女子大学	－	外国史概説Ⅱ、国際保健論
甲南大学	アフリカ研究	（学部）現代の芸術、国際理解Ⅱ、文化地理学、アジア文化史、国際政治学Ⅱ、アジア史概説Ⅱ（アジア史Ⅱ）、国際社会と日本、グローバル研究プロジェクトⅠ～Ⅴ （大学院）国際人権法
神戸海星女子学院大学	－	観光文化地理論

神戸学院大学	アジア・アフリカの社会と文化 I・II、地域政治論Ⅳ（中東アフリカ）	（学部）地域学入門Ⅰ、経済史総論、国際政治学、生態人類学Ⅰ、英語史、地域文化研究A、生態人類学方法論、生態人類学研究、運動文化論Ⅰ、開発経済学、スポーツ史 （大学院）国際政治学特殊講義
神戸芸術工科大学	—	ダンスワークショップ①、ダンスワークショップ②、文化人類学、音楽文化論、音楽理論、音楽史、音楽文化論
神戸国際大学	総合科目C（国際協力とアフリカ）	アドベンチャー・ツーリズム論、エスニック・ツーリズム論、ヨーロッパの民族、国際援助論、地球環境論、地誌
神戸市外国語大学	—	（学部）国際関係概論1・2、比較地域研究1・2、国際経済関係史1・2、スポーツ文化論1、社会開発論、国際政治論1・2、国際政治史2、多国籍企業論2、スポーツ文化論演習「第1」2 （大学院）近代比較地域史研究2、第三世界論研究1・2
神戸松蔭女子学院大学	—	比較文化ⅡB、多文化教育論
神戸女子大学	—	衣・食・住Ⅰ、フランス語講読Ⅱ、グローバル・ローカル基礎Ⅱ、世界の地域文化研究、西洋古代中世史、世界の食生活と健康
神戸親和女子大学	—	西洋史、国際文化概論
神戸大学	（大学院）アフリカ経済論	（学部）国際文化特殊講義（JICA）、芸術文化形成論、東洋古代中世史、フランス語中級、東洋史、東洋史特殊講義、西洋史A・B、政治学A、現代社会人類学、国際機構法、環大西洋文化論、生産環境工学特別講義Ⅱ、地歴科教育論B、異文化理解、音楽民族学、バイオシステム工学特別講義Ⅴ、国際協力の現状と課題B （大学院）言語教育環境論特殊講義1・2、先端融合科学特論Ⅰ、東洋中世史特殊研究Ⅰ、国際機構法特別特殊講義、政治発展論、フィールド調査法1・2、人的資源開発論、開発運営論特論、現代経営学応用研究（グローバル戦略）、開発評価論、開発運営論
神戸常盤大学	—	病原微生物検査学Ⅰ、国際看護活動論
神戸山手大学	アフリカ地域研究：アフリカの旅	—
兵庫県立大学	—	（学部）比較文化論、社会学a、経済史、環境問題と国際協力 （大学院）国際開発論特殊研究

※キーワード検索によって「アフリカ」という言葉が登場するものを取り上げている。
ゼミナール、演習科目を除く。
※学部／大学院の未記載の場合は、学部の科目を指す。
＜出所＞各大学がHPで公開している2016年度版シラバスをもとに筆者作成。

むすびにかえて

このように神戸は昔からアフリカと深い関わりを持っていた。1930年代末ごろには、アフリカ地域への輸出の約45%を神戸港が占め、関西圏の神戸港と大阪港を合わせると約80%に達する。神戸港は日本で最も多くの輸出品をアフリ

カ地域へ送り出した港であった。現在（2016年）では、航空網の発達や阪神・淡路大震災などの影響によってアフリカへの輸出額は全体の約8%、主要5港のなかで第3位の位置に低下している。しかし、各国ベースで見た場合、セネガルやリベリア、トーゴ、ベナン、ブルキナファソといった西アフリカ地域への輸出額は依然として主要5港のなかで1位となっている。

神戸市も今日のアフリカ市場を意識した取り組みを開始している。神戸市の5ヵ年計画である「神戸2020ビジョン」のなかでも、IT分野でのビジネスチャンスを明示するなど、アフリカ各国との交流が加速する期待感がある。なかでも、ルワンダとは2010年代に入ってから ICT 分野での経済的な交流が顕著に見られる。交流のきっかけとなった「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）」によって、神戸市内の大学にもアフリカからの留学生が多く訪れている。特に、神戸情報大学院大学では ICT を活用した社会開発や社会課題解決のための人材育成に力を入れている。神戸市でもこうした動きを後押しするために、ルワンダへの視察や調査員の派遣、ルワンダ IT ビジネスコーディネーターの配置などを行い、市内でもアフリカビジネス関連のセミナーや研究会を開催するなど積極的な取り組みが見られる。

普段の生活のなかで、アフリカの様々な情報を得ることは容易ではない。遠く離れたアフリカ諸国の情報は、近隣のアジア諸国に比べると得られる情報は限られるだろう。第5回アフリカ開発会議（TICAD V）が日本で開催された2013年の注目度は高かったが、第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）がアフリカのケニアで開催された2016年の注目度は決して高くないといえる。アフリカ開発会議が開催された月を含めた前後3ヵ月の神戸新聞の記事数を見ても、TICAD Vの際は14件（5月）、20件（6月）、7件（7月）の計41件、TICAD VIでは2件（7月）、12件（8月）、3件（9月）の計17件と、注目度に大きな違いがあることがわかる。また、神戸市内の大学で提供されているアフリカに関連する講義科目を見ても、講義全体でアフリカを取り上げている科目は少なく、外国史や国際関係、経済、文化、保健・健康などの科目で一部取り上げられていることが多い傾向にあることが明らかになった。

神戸（市）とアフリカは貿易面でのつながりはあったが、現在は IT 分野を

通じて交流を拡大している。加えて、積極的にビジネスセミナー等を開催するなど、さらに他分野での交流が加速するものと考えられる。神戸市では医療産業都市の展開や防災など、アフリカに寄与できる技術を多く秘めている。こうした神戸市の強みとなる分野での交流も今後展開されることが期待される。

《参考文献》

- アフリカ開発銀行アジア代表事務所・アフリカビジネスパートナーズ（2016）「アフリカビジネスに関わる日本企業リスト」
- 大谷幸正（2016）「神戸2020ビジョンの意義と概要」『都市政策』神戸都市問題研究所、第163号
- 神戸市（2016）「神戸2020 ビジョン」
- 神戸市商工課編（1922）『海外商工名鑑』神戸市商工課
- 商工省貿易局（1941）『貿易業調査書』商工省貿易局
- 四方田雅史（2000）「一九三〇年代における横浜・神戸の外商と世界市場：アジア・アフリカ市場を中心に」『アジア研究』アジア政経学会、第46巻第3・4号
- 高木隆（2017）「神戸港とともに歩む神戸税関」『都市政策』神戸都市問題研究所、第166号
- Masako Osada. (2002), *Sanctions and Honorary Whites: Diplomatic Policies and Economic Realities in Relations Between Japan and South Africa*, Greenwood Press.
- TICAD VI事務局（2016）「ナイロビ宣言：概要」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000184371.pdf>
- 「TICAD VIにおける我が国取組」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000183834.pdf>

《新聞記事》

- 金井和之「情報通信の技術でアフリカと連携を 神戸市 橋渡し役配置へ」『朝日新聞』2017年3月28日付朝刊、29面
- 杉浦恵里「成長ルワンダ 神戸が熱視線 ICT 立国、産学官で支援 アフリカ開拓 突破口に（関西は今）」『日本経済新聞』2016年8月27日付朝刊、35面
- 「アフリカ進出で連携 神戸情報大学院大 企業に情報提供」『日本経済新聞』2016年4月13日付朝刊、31面
- 「アフリカからの留学生と交流会 神戸市、企業と結ぶ」『日本経済新聞』2016年10月18日付朝刊、35面
- 「神戸市、ルワンダと連携 現地で検討会 IT 産業を育成」『日本経済新聞』2016年4月27日付朝刊、39面

《参考 Web サイト》

「神戸市：アフリカ・ルワンダ共和国ビジネスセミナーの開催」

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2015/08/20150825141901.html>

「神戸市：アフリカ・ルワンダ地域との ICT 分野における経済連携機能の強化」

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/07/20160714041901.html>

「神戸市：第 2 回アフリカビジネスセミナーの開催」

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2016/09/20160908041901.html>

「神戸市：トランスフォーラムアフリカサミット2017に参加します」

<http://www.city.kobe.lg.jp/information/press/2017/04/20170426041901.html>

「神戸情報大学院大学：学外交流会・社会貢献」 <https://www.kic.ac.jp/index/outline/csr/>

「国際協力機構：アフリカビジネス研究会」

https://www.jica.go.jp/kansai/event/2016/170317_01.html

「財務省貿易統計：国別総額表」

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=23&P=0>

「財務省貿易統計：税関別国別総額表」

<http://www.customs.go.jp/toukei/srch/index.htm?M=25&P=0>

「政府広報オンライン：神戸とルワンダの絆」

http://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/201607/201607_02_jp.html

「兵庫県：「第 1 回アフリカビジネスセミナー」のご案内」

https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/20160517_892b92e7856c4c4749257fb60005db33.html

「World Bank：Regional aggregation using 2011 PPP and \$1.9/day poverty line」

<http://iresearch.worldbank.org/PovcalNet/povDuplicateWB.aspx>